

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

九州・沖縄ブロック 地方ステージ

[主催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後援] 熊本県教育委員会

[期 日] 令和3年12月26日(日)～12月27日(月) 【日帰り2日間】

[活動場所] 本会場 : 国立阿蘇青少年交流の家 大研修室
リモート会場 : 国立大隅青少年自然の家 福岡県立筑豊高等学校
国立諫早青少年自然の家

[参加者] 本会場 グループの部 熊本県立阿蘇中央高等学校 19名
個人の部 熊本県立阿蘇中央高等学校 1名
リモート会場 グループの部 福岡県立筑豊高等学校 6名
個人の部 志学館高等部 1名/福岡県立筑豊高等学校 1名

[評価委員] 二木 信輔 氏(岡山県立玉島商業高等学校 校長)
岡村 誠也 氏(熊本県立教育センター 副所長)
川並 満徳 氏(国立阿蘇青少年交流の家 所長)

[担当職員] 本会場 4名 リモート会場 各1名

[ボランティア] 本会場 4名

1 趣 旨

新学習指導要領に定められた「総合的な探究の時間」の目標等に基づいた研修会を実施するとともに、生徒が地域で行う探究活動を顕彰することで、生徒一人一人が社会の担い手となって、社会の成長につながる新たな価値を創造する人材になることを支援する。

2 目 標

- (1) 出場者の発表を評価・審査し、全国ステージに出場するブロック代表者を選出する。
- (2) 事後アンケートで8割が、「自身の探究活動を見直すことができた」と回答する。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

| 1日目 | | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 |
|--------|-----------|-------------|-----------|----------------|--------|-------|--------|---------------|-------|-------|
| グループの部 | 12月26日(日) | 参加者 評価委員 | 受付 打合せ | アイスブレイク 開会式 | プレゼン発表 | 昼食・休憩 | プレゼン発表 | グループワーク 審査 | 閉会式 | 解散 |

| 2日目 | | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | |
|------|-----------|-------------|-----------|----------------|--------|---------------|-----------|
| 個人の部 | 12月27日(月) | 参加者 評価委員 | 受付 打合せ | アイスブレイク 開会式 | プレゼン発表 | グループワーク 審査 | 閉会式 解散 |

【アイスブレイクの様子】



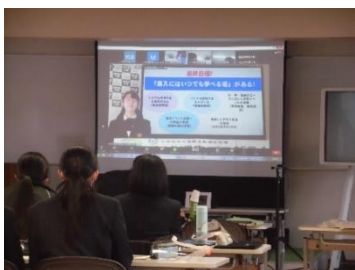
【発表の様子（本会場）】



【質疑の様子（本会場）】



【発表の様子（リモート）】



【グループワークの様子（1日目）】



【グループワークの様子（2日目）】



4 成果と課題

(1) 成果

- 評価委員に県立教育センターからお招きしたことで、今後の探究活動において、県と協力、連携して取り組んでいくきっかけとなった。
- コロナの感染状況を考えて、計画段階からリモートで実施する方向で進めていたので大きな混乱はなかった。
- 実施後のアンケート項目「自分自身の探究活動を見つめなすことができた」で、「そう思う(66.7%)」「ややそう思う(33.3%)」と回答した。また、「高校生でこんなことをしている人がいると発見でき、たくさん学ぶことができた」「自分の課題も見つかり、自己分析するよい機会となった」「より地域課題について深められた」「地方ステージの場で発表したことで、さらに深い活動ができたと思いうれしかった」などの記述があり、地方ステージを経験したことが生徒にとって大きな学びになっていることが分かった。
- アンケートの自由記述では「阿蘇のことをより深く知ることができてよかった」「これからは阿蘇についてもっと色々な人々に広めていきたい」「阿蘇を離れる時が来ても、自分のできることをみつめていきたい」などの記述があり、自分が育った地域について知るだけでなく、地域社会の一員としての視点を持ち始めており、本事業の趣旨に沿った学びができていた様子が伺えた。

(2) 課題

- 書面審査対象となる「実践活動報告書」の形式や実践日数のカウント方法、プレゼン発表の評価基準の在り方（特に時間の制限）について改善の必要があるため、来年度に向けて修正が必要である。
- オンラインで実施する場合、参加者の不利にならないように通信状況やマイクの状況の改善、工夫が必要である。
- アンケート項目「プレゼン発表に満足できたか」の問いに対し、26.7%の生徒が、「やや不満」と回答している。理由として「準備不足だった」「質疑応答に迷った」などの意見の他、「他校の発表のレベルが高かった」「他県の発表者の質疑の受け答えが上手だった」などの意見もあったことから、次年度はより自信をもって発表や受け答えができるように、出場決定後、本番までの間に模擬的な練習会などの手立ての必要性を感じた。